

# 2018年度教育研究活動報告用紙(様式9(2018))

氏名	友原 嘉彦	職名	准教授	学位	博士(学術)(広島大学 2011年)
----	-------	----	-----	----	--------------------

研究分野	研究内容のキーワード
観光地理学、観光社会学、ドイツ語圏観光研究	女性と観光、観光と文化資本、鉱工業都市と観光

研究課題
2018年度は2017年度までの科研費の採択課題であった女性と観光の研究を昇華すべく、その部分も活かして、鉱工業都市と観光について研究してきた。端的には観光に注力している福島県いわき市をフィールドとして調査を行ない、観光の歴史と現状、課題等について明らかにした。なお、この成果は論文として公表することができた。

担当授業科目
<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期:「欧米文化交流研修A」、「専門演習ⅠA」、「欧米観光文化地理Ⅰ」、「初年次セミナーⅠ」、「観光学入門」、「比較文化論」、「中級日本語」</li> <li>・後期:「欧米観光文化地理Ⅱ」、「フィールドワーク入門」、「観光フィールドワーク」、「観光社会学」、「ツーリズム演習」、「旅行産業論」</li> <li>・通年:「専門演習Ⅱ」</li> </ul>

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 専門演習Ⅱ 】</p> <p>4年次の「卒業研究」にスムーズに進めるよう、文献の探し方、構成、読み方などについて時間をかけて指導し、受講生各自が興味を持った文献について発表してもらった。また、学生に関心のあった兵庫県の城崎温泉における「女子旅」を科目共通の研究課題として取り組んだ。後半には「卒業研究」にあたっての構想発表を行なってもらった。再発表となったものもあったが、最終的には翌年度に向けてクオリティーの高いものになった。</p>
<p>授業科目名【 欧米文化交流研修A 】</p> <p>学内でドイツ語やドイツの歴史、文化、社会等についての知識を深めた上で、実際にドレスデンの大学に行き、語学を始めとした研修を受けた。学生は現地の大学や寮で他国の学生と交流を行なった。また、ドイツやオーストリアといったドイツ語圏の関わりが深いチェコのプラハにも赴き、ドイツ文化圏や旧共産圏のあり方に触れることができた。</p>
<p>授業科目名【 専門演習ⅠA 】</p> <p>本科目は1クラス30人規模の2年生配当の演習である。この科目から「専門」という名称が付されており、当クラスでは、友原嘉彦編著(2017)『女性とツーリズム』古今書院、を教科書として用い、女性と観光を中心に専門性の基礎の涵養に努めた。</p>
<p>授業科目名【 欧米観光文化地理Ⅰ 】</p> <p>西欧の観光地域、観光都市を取り上げ、それらの観光地としてのあり方・魅力・誘因力について講義を行なった。地図や画像、グラフもふんだんに用いて、理解の定着努めた。定期試験だけでなく、月1回のペースでレポートも執筆してもらい、日頃からの勉学の習慣付けに努力した。</p>
<p>授業科目名【 初年次セミナーⅠ 】</p> <p>本科目は1クラス7~8人規模の一年次の演習で、8クラス共通でレポートの書き方などをテーマとしており、教科書も共通のものである。教科書の輪読も行なったが、加えて、関連する新聞・雑誌記事も用いて、理解の定着に努めた。</p>

<p>授業科目名【 観光学入門 】</p> <p>観光学の入門科目であるため、基礎的なところから人文・社会科学、自然科学に至るまで分野横断的に理論について指導した。終盤にはバックパッカーや「女子旅」など比較的近年における各時代に流行した旅の形態についても触れ、現実感のあるものとした。</p>
<p>授業科目名【 比較文化論 】</p> <p>日独のポピュリズムの歴史について比較検討した。ポピュリズムが暴発したときどうなるのか。凄惨な事例も例にしたが、受講者はその危険性から目を背けることなく、しっかり参加してくれた。ニーチェやオルテガ、あるいはブルデュー以来、文化における決定的な違いは場所ではなく、所属層の違いに収斂されていることが示されるようになった。次年度もこの辺りについてより深めていきたい。</p>
<p>授業科目名【 中級日本語 】</p> <p>留学生対象科目である。友原嘉彦編著(2017)『女性とツーリズム』古今書院、を用い、時間をかけて輪読した。これにより、日本語力のさらなる向上はもちろん、観光文化学科ならではの観光学についても考えることができ、議論も活発であった。毎回、漢字の読みや外来語の意味に関する小テストも行なった。小レポートも2度課した。</p>
<p>授業科目名【 欧米観光文化地理Ⅱ 】</p> <p>東欧の観光地域、観光都市を取り上げ、それらの観光地としてのあり方・魅力・誘因力について講義を行なった。地図や画像、グラフもふんだんに用いて、理解の定着努めた。定期試験だけでなく、月1回のペースでレポートも執筆してもらい、日頃からの勉学の習慣付けに努力した。</p>
<p>授業科目名【 フィールドワーク入門 】</p> <p>前半はフィールドワークの役割と方法など理論的なことを学んだものの、中盤からは北九州市、および、その周辺地域を対象地としてフィールドワークを行なった。定期試験は行なわず、フィールドワークの前後にそれぞれ2~3人のグループで口頭発表をしてもらった。観光に囚われず、多様な疑問にあたるという上で、この地域で生活する者達として多くの考えるきっかけを付与することができた。</p>
<p>授業科目名【 観光フィールドワーク 】</p> <p>北九州市、および、その周辺地域を対象地として観光フィールドワークを行なった。定期試験は行なわず、フィールドワークの前後にそれぞれ2~3人のグループで口頭発表をしてもらった。また、フィールドワークを通して各人が興味を持った観光のテーマについて文献を紹介してもらった。</p>
<p>授業科目名【 観光社会学 】</p> <p>観光社会学の教科書を用いて講義を行なったが、加えて、関連する新聞・雑誌記事も用いて、理解の定着に努めた。定期試験だけでなく、月1回のペースでレポートも執筆してもらい、日頃からの勉学の習慣付けに努力した。</p>
<p>授業科目名【 ツーリズム演習 】</p> <p>本科目は1クラス30人規模の1年次の演習で、2クラス共通でキャリアの考察をテーマとしていた。担当したクラスでは教科書に都市計画に関するものを選定し、日独の周縁都市の都市計画について比較検討を行なった。中間レポートも2度提出してもらった。</p>
<p>授業科目名【 旅行産業論 】</p> <p>旅行産業にかかる教科書を用いて講義を行なったが、加えて、関連する新聞・雑誌記事も用いて、理解の定着に努めた。期末レポートだけでなく、月1回のペースでレポートも執筆してもらい、日頃からの勉学の習慣付けに努力した。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本国際観光学会 日本観光研究学会 観光学術学会		2008年4月～現在に至る。 2008年7月～現在に至る。 2012年7月～現在に至る。

2018年度 研究業績等に関する事項
--------------------

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文) 「周縁鉱工業都市における観光都市的性格付け ―福島県いわき市を事例として―」	単著	2019年3月	西南女学院大学紀要 23, pp.71-79	観光に注力している周縁鉱工業都市として福島県いわき市を選定し、観光都市的な性格付けの変遷を探った。結果、外部からや外部をよく知っている者からの先進的な働きかけが市の観光に大きな影響を与えたが、そのような環境が整わない限りは特筆すべき状況にはなりにくいことが示された。
(翻訳)				
(学会発表)				
				教育研究業績総数 (2019年3月27日現在)  著書 1 (内訳：単0、共1) 学術論文13 (内訳：単13、共0) 翻訳 0 (内訳：単0、共0) 学会発表 9 (内訳：単8、共1)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）
教務委員会（副委員長）、学生委員、学生募集委員

